


心不全について

内科 森本 皓大

心不全とは、心臓が悪いために、息切れやむくみが起こる病気のことです。心不全になる原因としては狭心症や心筋梗塞のような心臓の筋肉を養っている血管（冠動脈）が詰まってしまう虚血性心疾患や、高血圧、弁膜症、不整脈など様々な疾患があります。言ってしまうえば心不全は全ての心疾患が辿り着く先になります。近年は高齢化に伴い心不全患者は増加傾向にあり、罹患者数は全国で約120万人と言われており、がんの罹患者数が約100万人であることと比べると、心不全がいかに多いかが分かると思います。心不全は徐々に悪化するため、予後が不良な疾患と言われており、「がんより悪い」と言われることもあります。心不全の重症度を判断するには、ニューヨーク心臓協会（NYHA）の分類がよく用いられます。Ⅰ度、Ⅱ度、Ⅲ度、Ⅳ度と数字が大きくなるにしたがって、予後も悪くなっていきます。心不全全体の年間死亡率は7～8%ですが、Ⅲ度、Ⅳ度になると死亡率は高くなり、Ⅲ度では20～30%になり、Ⅳ度の方は半数が2年以内に亡くなるとも言われています。特に入院をしてしまうと、体力が低下し退院後には以前できていたことも難しくなることが多いです。その後、入退院を繰り返すことで心不全は徐々に進行してしまします。

つまり早期（NYHAⅠ度～Ⅱ度）に発見し、増悪する前の段階から治療を開始することで進行や入退院を防ぐことが重要です。心不全で多く見られる症状としては息切れやむくみがありますが、はっきりと現れないことも多く、あっても「年のせい」と思ってしまうことが多いです。なので、今までできていたことができなくなった場合には一度かかりつけの先生に相談してみることが大事になります。

心不全に対する検査としては聴診、胸部X線検査、心電図検査、心エコー検査、血液検査などがあります。聴診では弁膜症を、心電図検査では心筋梗塞や不整脈を発見することができます。心エコー検査では心臓の動きや機能などを評価することができ、聴診で疑った弁膜症の確定診断もすることができます。最近では弁膜症や不整脈に対するカテーテル治療が発展してきており、高齢者の方でも負担が少なく治療を受けることができます。心不全が重症化する前に治療介入することで健康寿命を延ばすことが期待できます。そのためにはまず診断が重要になります。「年のせい」と思わず、まずはかかりつけの先生の相談をしてみてください。

Ⅰ度	心疾患はあるが身体活動に制限はない。日常的な身体活動では著しい疲労、動悸、呼吸困難あるいは狭心痛を生じない。	
Ⅱ度	軽度の身体活動の制限がある。安静時には無症状。日常的な身体活動で疲労、動悸、呼吸困難あるいは狭心痛を生じる。	
Ⅲ度	高度な身体活動の制限がある。安静時には無症状。日常的な身体活動以下の労作で疲労、動悸、呼吸困難あるいは狭心痛を生じる。	
Ⅳ度	心疾患のためいかなる身体活動も制限される。心不全症状や狭心痛が安静時にも存在する。わずかな労作でこれらの症状は増悪する。	

(付)Ⅱs度：身体活動に軽度制限のある場合
 Ⅱm度：身体活動に中等度制限のある場合

New York Heart Association(NYHA)分類

参考文献：公益財団法人日本心臓財団